

綾子

○波静か海月光身に纏う

○木下闇遍路の鈴の遠ざかる

蜜を吸う夏蝶の羽根合掌す



文子

放し飼いそれとも置き去り羽抜鶏

章魚水母楽しみ癒やされ海に帰す

半夏生北海道の蛸旨し



農子

羽抜鶏涼しくなりてすまし顔

満潮の川面に海月傘あまた

夏休み隣家に子等の笑い声

初江

○少年野球母に始まる暑い夏

○ひで君を追ひ回してる羽抜鳥

忘らるる小さき島に海月寄す



瑞枝

○中華街の赤の看板油照り

勲章の鶏冠かたなし羽抜鶏

風鈴に好きな一句を吊しけり

郁子(土)

○遺影写真探して夜の秋

○夜風ふと昭和の匂ひ遠花火

夫に似て成りしきゅうりの大曲り

酔花

羽抜鶏路地裏からの二人づれ

あおあおを見上げていたり羽抜鳥

羽抜鶏転ばぬように杖をつく

えり

刺す趣味の海月の体潮さらう

羽抜鶏マダム気取りの横目かな

ふあと来てふわと隠れる姫蛸



志津子

○鮎釣りの瀬に逆らって二・三人

○手花火の最後のポトリ闇深し

夏蝶や夢は望とならぬまま

富子

○羽抜鳥来し方行方ふり返り

廃校の水母展示やはかなくて

寡婦三人川風受けて夏凌ぐ



千代

○箒持つ巫女を離れぬ羽抜鶏

○ケセラセラ揺れて海月のひとりごと

砂、小枝、羽にまみれて児の跣

郁子(岡)

タやみに線香花火の儚さよ

海面に光求めるくらげかな

ガラス皿ゼリーの金魚踊り出す

紀美

○羽抜鶏園児に追われケーコココ

○脳持たぬ海月はふわりしたたかに

コリコリと美味なクラゲもクラゲなり



迪子

○波に揺られ夢路さまよう海月かな

風鈴や昼寝うとうと子守唄

羽抜鶏親の涙と反抗期

味元 昭次 作品

大いなる共感を呼ぶ羽抜鶏
合区なる選挙に行くや羽抜鶏
海月には老醜は無し海青し

★次回市民句会

【開催日時】

令和七年九月二十四日(水)

午後一時十五分～午後四時(予定)

【場所】

オーテピア4階 研修室

【兼題】

①秋の蟬 ②鵲

(他の題材でも構いません)

【初めての方へ】

市民句会は、俳句愛好者の集いです。
どなたでも自由にご参加いただけます。
事前申込や参加費は不要です。

